

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2296800028		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム菊川 (2ユニット合同)		
所在地	菊川市堀之内103-3		
自己評価作成日	平成22年9月25日	評価結果市町村受理日	平成23年12月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ai.gokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2296800028&SC

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシビル6階		
訪問調査日	平成23年10月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム理念でも掲げているように、「安らぎと喜びの家」を目標とし、入居者様が安心してホームで生活していただけるような環境づくりや対応を目指しています。まずはスタッフがグループホームケアとは何かを理解し、入居者様がストレスを感じない様なケアを目指しています。まだまだ上のレベルまでは行っておりませんが、今年度行われたご家族様アンケートの結果では、愛の家全国のホーム(2ユニット)の中で10位といった成績も収めることができ、全スタッフ大変励みにもなっているところです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

東海道線の菊川駅から徒歩5分の商店街の一角にあり、訪問しやすい場所にある事業所である。管理者は外部評価における資料送付などのやりとりにおいて大変丁寧で漏れのない対応ができ、アンケートの好結果も併せ、日頃の利用者、家族、職員への十分な関わりが窺える。法人内の事業所100社余り(実際は147事業所あるが、新規事業所は行ってないため)が一斉に取り組んだ顧客満足度調査の結果も全国10位で、社内表彰されている。また、法人全体で「グループホームケア」に特化していて、お客様をはじめ外部評価者の意見を改善へと真面目に取り組む様子も確認できた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の運営理念があり、それとは別にホーム独自の理念を作り、それに沿って入居者様の介護にあたっている。毎朝朝礼時に運営理念を唱和し、意識を高め理念の共有を図っている。	掲示と唱和で意識づけを繰り返している。ホーム理念は職員とともに作りあげた愛着のあるものであり、管理者の理念に係る声掛けや注意についても職員の反応がすみやかになってきている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会主催の清掃活動に、入居者様、職員と共に参加したりしている。散歩に出掛けた時や買い物に出掛けた時などは、挨拶をするように意識している。	地域の祭りに酒を届けたり、散髪も近所の店を使い、顔見知りの関係を築くことに努めている。また、小学生の福祉体験や行政の就労体験の受入も行っている。腹話術や歌のボランティアの定期訪問もある。	昨年目標でもあり家族へのたよりは実施しているが、今後は回数は少なくても(半期毎、四半期毎など)地域に配布するようなことも検討いただきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学校からの福祉体験授業の受け入れなどは積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では地域の方、市職員、ホーム職員入居者様加わり、取り組み状況を伝えたりその場で様子を見ていただいています。	市、包括の職員のほかに近隣の特養の施設長の参加もあり、有意義な話を伺う機会となっている。また、自治会にも2ヶ所から参加してもらっており、運営推進会議を通じ自治会との関係がスムーズになっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	随時行政への報告や連絡を取り合っている。営業活動などの時間には、行政へも顔を出し情報交換も行っている。	随時顔をだすようにしているため、なじみの関係にあり、相談にのってもらいやすい状況にある。また、包括からは入居者の紹介があるなど、相互の信頼関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議などで勉強会を行ない、取り組んでいる。	法人で「身体拘束の取扱いに関する要綱」を定めているほか「身体拘束廃止推進委員会」を設置し、適切な対応に努めている。また、事業所内でも「禁止用語」「禁止動作」をまとめており、内部研修にも取り組み、認識の共有化を図っている。	やむを得ず施錠する場合があるようだが、何をもってするかを職員と話し合い、ケアの在り方をさらに共有することを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議などで勉強会を行ない、取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	まだ実施できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や運営推進会議などにより、機会を設けている。	意見箱に意見が入った実績はないが、法人が毎年顧客満足度調査を実施しており、改善向上の参考にしている。また、日頃から面会や運営推進会議などの機会を通じコミュニケーションをとるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等の場や、ユニット会議などの開催時に意見等を聞いている。個人面談の場を設けるようにしているが、回数としてはまだ年1回程度。	会議での発言は少ないが、個人面談も取り入れるなど管理者は意見収束を心がけている。また、昨年に比べ記録のとり方が充実していることから、職員の意欲や取り組みが高まっていることが確認できる。	会議で発言してもらえるよう、事前にテーマを知らせるなどの工夫を期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本社より全国統一のアンケート調査などを実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	MCS本社からの研修資料などを活用して取り組みを行っている。今後外部研修を他ホームと行なっていく予定。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内、県外の系列グループホームにて情報交換を行っている。システムデザイン研究所様の働き掛けにより、今年度他施設との合同研修会に参加予定。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントを取る段階にて、本人の要望を伺いながら行っている。実際にご本人様の家にも伺い、生活の様子や落ち着ける場所、雰囲気などの調査も行う。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントを行いながら、ご家族の悩みや困っていることについても耳を傾け相談にのっている。ご家族の置かれている立場をしっかりと理解し、対応させていただいている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネがケアプラン作成時に見極めを行ない、努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	極力自分で出来ることは行って頂いており、普段の生活の中で出来ないことについては、お手伝いをさせていただいている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事などにも声掛けさせて頂き、なるべく入居されてからも一緒の時間が持てるように心掛けている。通院についても、願いをしながら関係作りを行っている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	床屋など、今まで行っていた場所へ行くこともしている。他には、近隣の自治会が開催する紙細工の講座にも参加したりしている。	外出には家族に協力してもらい、連れだって墓参りなどに出掛けている。以前の勤務先の人など、家族以外の人の訪問もある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の程度もあり、軽度の方が重度の方に対して言葉での攻撃があることが最近見られる。職員が間に入り、喧嘩になったり孤立しないように努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在の所、積極的には行なっておらず、要望があった場合、相談等に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人から聴くことと、ユニット会議でケアプランの更新になる方について、ご本人の要望、やりたいことなど話し合いを行なっている。	訴えなどの発語も含み、日々の変化については日報や個人ファイルに記録し、更新時にはセンター方式をアレンジした「状況確認発見シート」を使い、カンファレンスに取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの暮らしを入居前にご家族からお聞きしたり、デイサービス、ショートステイなどのサービスを利用した状況を確認し、グループホームでの生活がスムーズに行えるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日報、介護記録、バイタルチェック表、通院記録表、ケアプラン実施記録表、看護申し送り表などを記録し、入居者様の状況把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議などで話し合い、介護計画を作成しています。但し、ご家族の会議への参加はまだ回数は少なく、今後の課題。	日課計画表の項目に「第2表の援助内容を実施する際の目安」というのがあり、実施する内容が具体的かつ簡潔に示され、実践しやすくなっている。また、家族からの声(アンケート結果)においてもプランに係る評価は高い。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日報、介護記録、バイタルチェック表、通院記録表、ケアプラン実施記録表、看護申し送り表などを記録し、入居者様の状況把握、情報の共有化に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアプランにより、一人ひとりに何が必要かを理解し、実践する様に心掛けている。季節の行事や外出などにも力を入れていく事を検討中。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	まだ地域資源の把握と活用が不十分であり、思うようにいっていない。趣味の部分で、地域にて開催するイベントへの参加も行っていく。(10月に1回参加予定)			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の時点で希望があれば、今まで通院していた掛かり付け医への受診を行なっている。特に希望が無ければ、協力医院への通院を勧めている。(内科、精神科)	通院介助は基本的には家族にお願いしているが、無理な場合は職員が対応している。受診結果は「受診記録簿」、薬事情報は「投薬一覧表」、契約看護師のアドバイスや指示は「看護申し送り表」に記載し、情報を共有化し有事に備えている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護申し送り表、通院記録簿などに記入し、看護師に情報を伝え適切な指示を受けながら、受診につなげています。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医院(菊川市立総合病院、木佐森医院、うえむら歯科)との関係作りは出来ている。その他にも、協定を結んでいない病院関係(岡本クリニック、精神科)でも往診に来て頂いたり、良い関係は出来ている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合における考え方や、終末期に向けた方針について説明を行なっている。過去の実績から、体験談なども交え話しをしている。	家族の意向を汲み取り、取り組んだ実績が1件ある。医療関係者と家族の協力が得られたため、無事にお見送りができ、職員も体験を通じた学びがあった。今後も家族の要望があれば出来る限りの対応をしたいと考えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会議等で、講習会の実施も行っている。マニュアルも準備している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、定期的に避難訓練を行っています。運営推進会議の場で行なったりもして、地域の方にも参加を働きかけている。	設定を替え年2回取り組むほか、地域の防災訓練には管理者が参加して消火栓などの確認をしている。また、法人作成の「防火用自主点検表」を用い、毎月ユニットごとに防火体制の見直しをしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	禁止用語の選定をスタッフ自ら意見を出し合い、心掛けている。排泄関係の失敗についても、他の方にわからないように配慮しながら行なっている。(車椅子用トイレを使ったりしている)	言葉遣いについてはマニュアルを整備し、職員会議で繰り返し接遇について学習を積んでいる。また、お客様からのご指摘にはすみやかに改善に努めることを旨とし、会議で周知し、職員全員で向上に取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本棚を設け自分で選べるようにしたり、掃除道具を食堂内の見える場所に置き、自分の意思で出来るようにしてある。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	長事や水分補給、入浴などの入まかな時間帯を決める以外は、毎日その方のペースで暮らす事が出来るように支援しています。午前中は、主に活動の時間帯(10:00~11:00)にて、散歩などの外出の時間としている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性については髭剃りを行い、頭髪の乱れや爪のカットなどを確認し、自分でできる方については、声掛けを行なっています。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	厨房タイプの為、昨年度からは大きな変化はありませんが、今年度は、食材の買出しなどに関わりを持って頂けるような取り組みを行なっている最中です。	管理栄養士によるメニューを専任のスタッフがつくっている。誕生会にはケーキを用意したり、外食も年数回している。座席についても都度配慮している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量及び水分摂取量については、バイタルチェック表と一緒に管理しています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとり食後に口腔ケアの実施をしています。義歯を使用されている方が多い為、義歯の洗浄消毒を行うことと、口腔内のチェックを行なっています。			

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を記入しながら、各個人の排泄リズムをつかみ、ご本人の表情しぐさなどを確認しながら支援を行っています。自分で出来ることは行なっており、出来ないことはスタッフが介助するようにしている。	排泄チェックによりタイミングを計るとともに、定期の巡視時間があるためそれを確認の機会としている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	玄米食の採用や、牛乳を毎日10時に提供したりして便秘の予防も行っている。毎日の運動ということで、散歩などにも出掛けるようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯としては、午後の2時過ぎぐらいから4時までの時間帯の中で入浴をさせて頂いています。ご家族アンケートの中で、入浴の支援についての要望も有った為、回数や報告についての改善を図っていきたい。	現在は週2～3回と決めてはいるが、家族からの要望もあり、回数を増やしていこうとしている。入浴は2人体制で安全第一としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	テレビを見たり新聞を読んだり、自由な時間を過ごした後、休まれます。最近、夜間就寝される時間帯もさまざま、日中の活動の方法なども検討しながら支援を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各ユニットに薬の一覧ファイルを設置し、各入居者様の服薬状況を確認できるようにしています。誤薬、怠薬などないように確認作業のルールを明確にし、行なっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントを行い、入居者様一人ひとりの要望を確認し、ケアプランを作成して、実践するように努力しています。その方の楽しみを知り、(外食、買い物、ドライブ等)支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	通院などの機会を利用し、ご家族との外出を行ったり、回覧板を置きに近所への散歩をおこなったりしている。誕生日などのイベントで外食を計画して、外食などの楽しみも感じていただけるようにしています。	午前10時から1時間程度を外へ出る時間帯としている。花に水をやったり、玄関先のベンチで外気浴を楽しんだり、近くへの散歩をしている。また、遠出は特に計画だてていないが、状況に応じて回転寿司などに出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在はご自分でお金を管理している方はいません。以前はいらっしゃるいましたが、忘れてしまうこともあり現在は中止しています。出掛けるときは、事務所にて出金し、職員が支払いを行なっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が電話を希望された場合は、事務所にて電話をかけていただいています。他に携帯電話を持っている方が1名いらっしゃいます。手紙は、年賀状のやりとりなどを行なったりしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂内、季節感を感じられるよう掲示物の作成をし、庭にはプランターに花を植えています。	利用者の状況に合わせ、家具の配置を替え、それぞれの居場所が確保できるようにしている。訪問が雨天だったため洗濯物を干す場所にやや苦慮していることを視認した。	5Sを含め、雨天の日の洗濯について一度検討されることを期待する。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	なるべく気のあった方を同じテーブルに着けるよう工夫しています。男性入居者様が増えた事により、テーブルの座席についても色々なパターンを試しながら行なっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は、ご家族に協力していただき、使い慣れた物をなるべく置ける様にしています。最近ベッドを使用せず、床に畳を敷いたりして利用されている方も増えています。(自宅での習慣や安全性も含めて)	入居前に専門職が自宅を訪問し、どのような暮らしをされていたかを確認させてもらっている。家族と相談し、なるべく慣れた生活に近づけるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの位置がわかるように「便所」の表示や、居室の場所がわかるように個人の写真を掲示したり、色で分けたりして、ご本人が判断できるように工夫している。		